

1. 塩屋まちづくり構想（素案）策定までの経過

まちづくりアンケートで広く意見を募集しました。

昨年夏に実施したアンケート調査（塩屋小学校区の全世帯に配布、回収数 484 票、回収率約 11%）により、まちづくりの方向性や日頃感じている問題、道路や公共交通、景観などに対する意見を募集しました。

「塩屋の将来像を描く」ワークショップを開催しました。

今年の2～3月に、塩屋小学校図書室をお借りして、まちづくりアンケートの結果を踏まえた構想づくりのワークショップを2回開催しました。

定例勉強会・部会の場で意見交換を重ねてきました。

アンケートとワークショップの成果をもとに、定例勉強会、道路・交通部会、景観・環境部会のそれぞれの場で意見交換を重ね、「素案」のとりまとめを行いました。

まちづくり構想とは・・・

望まれるまちの将来像を地域で共有し、まちづくりの方針や目標、さらにその目標を実現していくための方策、住民／行政の役割分担、事業推進のスケジュールなどを定めたものが「まちづくり構想」です。塩屋まちづくり推進会が、まちづくり条例に基づく認定団体として認められれば、「まちづくり構想」を「まちづくり提案」として市に提案することができます。



ワークショップの様子

2. 塩屋地区の課題・問題点とまちづくりの基本目標

まちづくりの課題

恵まれた自然環境、豊かな地域文化、魅力的な街並みと眺望景観、これらを受け継ぎつつ、以下のような課題に対処していくことが今後のまちづくりにとって重要だと考えます。

●主要幹線道路（≒通学路）が危険である

まちの骨格道路が狭く、歩道が確保されていない。交通量は多く、特に通勤・通学時間帯の渋滞が常態化している。小中学校・幼稚園の通園・通学路にも指定されており、歩行者の安全確保がきわめて重要かつ緊急の課題となっている。

●防災上の問題を抱えたエリアが点在する

起伏に富んだ地形ゆえに、階段状、傾斜状の細街路が随所にみられる。また法規上、建替えが困難な敷地も多い。そういったエリアに老朽化した家屋が密集しており、延焼の危険性や防災活動の難しさなどを抱えている。

●海や山の眺望景観が乱れつつある

地区の広範囲から、海や山の景観を望むことができる。しかし、新たな建築物の立地等によって眺望が損なわれるケースが発生してきている。また、山や緑地そのものが失われる傾向にある。

●水辺とまちのつながりが希薄になっている

南北を貫く塩屋谷川、南部に広がる海岸など、地区は自然の水辺空間に恵まれている。しかし親水性に乏しく、まちと分断された存在となっている面もある。またゴミのポイ捨てなどマナーの悪さが目立つ。水辺の美化に努める必要がある。

●異人館など魅力資源の維持が困難になっている

地区に点在する異人館は塩屋の重要な景観要素となっている。しかし中には老朽化が激しく、適正に管理されていないものもある。それらの多くは民間の所有であるため、今後、維持・保全・活用の手立てを検討していく必要がある。

●駅周辺において自動車と歩行者の動線が混ざり合っている

駅周辺は歩行者だけでなく、送迎などの自動車や自転車も多く、交通の流れが混乱している。駅の直近は幅員の狭い私道が多いため、自動車が進入しにくい状況になっている。

まちづくりの基本目標

- 誇りを持って愉しく住み続けられるまちづくり
- 自然環境と調和した、安心・安全なまちづくり
- 歴史と地域文化を生かした、個性あふれるまちづくり